

(国際理解教育)

「人とのつながり」を大切にし、  
アクティブに思考判断行動できる子どもを育てる  
～国語科から見える国際理解教育～

大阪市立新庄小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「互いに尊重し合い、自ら学ぶ、たくましい子どもを育てる」を設定し、「身の回りの環境や社会情勢に目を向け、正しいと感じたことを具体的に行動に移すことができる子」「世界とのつながりを意識し、国際社会で生き抜く力を身に付けた子」「自分の意見を相手に伝えたり、話し合う中で自分の意見をまとめたりできる子」をめざす子ども像として、日々の教育活動を展開している。また、「子どもが安心して成長できる安全な学校の実現」と「限られた場所や時間を工夫して、心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」を学校経営の重点として教育活動を進めてきた。

学力経年調査や全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた、文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多いという課題を受け、令和元年度より本校では、国語科を中心に、書く力を育む研究を進めてきた。各学年の発達段階にあった具体的な支援やスモールステップでの指導を積み重ねた結果、児童は文章を書くことに対する抵抗感が和らぎ、文章を書く力が付いてきた。また、目的や相手を意識して書くことで、文章表現の工夫もできるようになってきた。

昨年度は、国語科と国際理解教育とを関連付けて学習できる教材を考え、国際理解教育の視点で社会に目を向け、児童が考え行動に移すことのできる学習に取り組んだ。また、国語科に軸足を置き、教科書ならではの吟味された教材を使うことで系統立てて国際理解を広げ・深めることができた。

今年度は、国語科と関連付けた国際理解教育のまとめとして、学習したことを、より深く考え、行動に移すことができるように学習展開をさらに工夫し、自分を認め、互いを認め合い、豊かな人間関係を築こうとする児童の育成を目指していくこととした。

## 2. 研究の趣旨

これまで取り組んできた国語科の成果を鑑み、国語科「書くこと」に軸足を置きつつ、単元の発展として国際理解教育を位置づけ、研究を進めていく。

その学習を通して、「豊かな人間関係」を土台とした「環境に敏感で、正しいと感じたことを具体的に行動に移せる子どもの育成」や「世界とのつながりを意識し、国際社会において生き抜く力の育成」をめざして研究を進める。

国語科と国際理解教育の教科横断的な学習は、国語科のカリキュラムを丁寧に進めながら、教科書ならではの吟味された教材を使うことで系統立てて国際理解を深めていく。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 国語科の学習をきっかけに「豊かな人間関係をベースに考えられる国際理解教育」へとつながる学習展開を工夫する。
---

- 国語科の年間指導計画から、国際理解教育と関連のある教材をとらえ、教材づくりを進める。
- 各学年が、教科・領域の学習と関連付けて国際理解教育の位置づけについて考える。また、校内で学年の縦のつながりを考え、学習を積み上げていけるように、年間指導計画を作成する。

視点② 国際理解教育を通して、自分の考えをもち、より深く考え、具体的に行動に移すことができるような指導方法を工夫する。
---

- 研究授業を中心に、児童が興味関心をもち、主体的に学習できる国際理解教育の教材づくりをする。
- 学年の発達段階に応じた国際理解教育の進め方を工夫し、具体的な指導方法を工夫する。
- アセスメントシートを使って、国際理解教育についての児童の実態を把握し、指導方法の工夫につなげる。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- それぞれの学年で国語科と国際理解教育を関連付けて学習できる教材を考えることができた。
- 児童にどのような資料を提示するか十分に吟味し、提示の仕方を工夫することにより、児童が興味関心をもち、主体的に学習に取り組むことができた。
- 世界と日本、または友だちと自分とでちがうことを肯定的にとらえて、ちがいを認め合う様子が見られた。

#### (2) 今後の課題

- 学年の発達段階に応じて、積極的に社会や世界に目を向ける機会を設けていく。
- 「ちがいを認め合う」ことについて、より一層の工夫が必要だと考えられる。
- 学年の学びの系統や他教科との関連などを考慮した国際理解教育の年間計画を整える。